

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

苫小牧市長 金澤 俊

市町村名 (市町村コード)	苫小牧市 (012131)	
地域名	樽前・錦岡 地区	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年12月26日 (第1回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

樽前・錦岡地区は畜産を中心に農業が営まれており、小規模な農業者が多い地区である。近年は冷涼な気候や積雪が少ないなどの特色を活かした施設栽培によるイチゴ、アスパラ、ベビーリーフなどの栽培が増えている。課題としてはエゾシカ等による農業被害が多いことから対策を講じなければいけない状況であること。また、農業者の高齢化から、離農や規模縮小が進むと考えられるため、農地の受け手の確保が必要である。

(2) 地域における農業の将来の在り方

現在、集積していない農地の多くが飛び地となっているものの、近年の新規就農の傾向としては小規模の施設栽培が多いことから、そのような土地を活用し新規就農者を迎えることが期待できるため、地域の調和を図りつつ将来的な集積率向上につなげていきたい。また、エゾシカ等による農業被害を軽減するための取組を市としても推奨していく。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	347 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	314 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

市街化調整区域内及び農業振興地域を含む設定としているが、農業者が現存しない及び集積化に適さない等箇所は除外する。新たな新規就農者の参入などがあった場合、地域計画の変更は認められているため、現状に即して、都度変更することを想定

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
農地バンク事業の活用により、地域内の農業を担う者及び新規参入者への集積・集約を進めるため、農業委員等と連携しながら取り組んでいく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
地域内の状況を把握している農業委員等と連携しながら、農地中間管理機構の活用を推進していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
新たな基盤整備の予定はないものの、既存農用地での鳥獣被害対策及び草地改良等の整備を要する場合は国等の補助事業の活用について検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
既存の農業を担う者に対して経営継承や経営効率化等に向けた取組を推奨していくとともに、農用地の流動性があることから新規就農等の確保に努める。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
農業支援サービス事業者は市内にないが、新たに事業者が現れた場合は地域内の状況や要望を把握し、活用を検討していきたい。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☐ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他
【選択した上記の取組方針】				
鳥獣による農業被害対策として、くくりわな捕獲事業と併せて、希望する農業者が使用する農地に侵入防止柵の整備を進める。				